

最終編 郷土の歴史と優駿の風を感じて



【参考文献】

成田市史・船橋市史
佐倉市史・酒々井町史
八街町史・富里村史
下総御料牧場記念史
千葉茨城地区馬のあゆみ(上)
競馬百科・浮世絵明治の競馬

【取材協力】

(財)藤崎牧土史料館
成田市三里塚御料牧場記念館
(社)日本軽種馬協会下総種馬場
競走馬のふるさと千葉県案内所
篠原ファームのみなさん
鳴田ファームのみなさん
山田牧場のみなさん
池田喜九男・駒野 道夫
沢田 泰裕・三浦 正二
篠原 喜八・篠原 義行
藤崎 久江・恵畑 政夫
栗原 広徳・中野 よね
若林 重雄・若林 ふみ
藤崎好太郎・藤崎 延子
綿貫 啓一・大谷 貞夫
新島 新吾・師岡 裕行
入井てる子・山田 博司
山田 雅章・矢川ユキ子
稲野辺 実・川島 猪良
小川 栄一(敬称略・順不動)

この特集の取材に、ご協力頂いたすべてのみなさんに対し、改めて感謝いたします。ありがとうございました。(広報とみさと編集一同)

特集
野馬から競走馬に至る歴史の風

風の優駿・完



【特集後記】

「競走馬のふるさと」に馳せる思い

寄稿特別員 小林 靖子

今回の特集では、紙面上での案内役として、下総種馬場、藤崎牧土史料館、三里塚御料牧場記念館、そして、競走馬のふるさと案内所から篠原ファームと山田牧場までの道のりを、約2週間かけて見学させていただきました。

富里町は「競走馬のふるさと」と言われてきましたが、その訳が、今回の取材を通して実感できたことは、「歴史の再発見」という意味でも感慨深いものがあります。

その昔は、徳川幕府によって管理されていた牧の名残としての「野馬土手」や「捕込」の存在。

捕込は千葉県で現存するもので最も保存状態が良いということや、下総御料牧場の発祥が、富里の両国にあったということに、私自身驚きすら覚えました。

町内に18か所ある牧場の形態も、

時代と共に、生産の主流が北海道に移っていますが、美浦のトレーニングセンターや、各競馬場へ近いことなどから、富里をはじめこの地域が、競走馬の調教や育成の地として、今後ますます重要な役割を果していることもわかりました。

富里に限らず、千葉県全体の競走馬の生産自体が徐々に減少傾向にある現実には、確かに寂しさも感じましたが、1頭の競走馬に秘めた、多くの人々の「夢」や「情熱」が、まだまだ、富里の地に今も続いていることは、改めてこの町の歴史と文化に、誇りと魅力を感じた瞬間でもありません。

「風の優駿」の取材では、歴史の風を駆け抜けていく、「人と馬」のかかりと共に、多くの人々の心の中に吹く「思い」という風を感じる事が、できたような気がしました。